

新 入 会 員 氏 名 (昭和45年 9 月 1 日 ~ 9 月 30 日)

維持会 員		正 会 員		学 生 会 員		外 国 会 員	
味の素(株)中央研究所	大和製衡(株)	日光 清	渡辺 博	岩貞 一三	石川島播磨重工業(株)	Prof. Julian Szekely	U.S.A
		羽池 勁	坂輪 光弘	梅村 享志	大同製鋼(株)	D.W.R. Haysom	Canada
		青島 衛	草野 祥昌	藤原 忠義	神鋼々線鋼索(株)	B. J. Lee	Korea
和住 宏	木更津工業高専機械工学科教官	高橋 紀夫	金子 侃司	大津 茂信	(株)神戸製鋼所	John L. Young	U.S.A.
浜野 文男	(株)エフプロダクション企画制作	伊藤 恒男	伊藤 弘	松原 格	東京支社		
青島 勇	東北大工金属加工文部教官助手	綿田 寛	谷口 耕作	萩原 康嶺	中央研究所		
大庭 幸夫	金属材料技術研究所	村田 耕作	小泉 孝	山口 喜弘	和歌山製鉄所		
榎原 昌夫	(株)日本製鋼所室蘭製作所	山形 建男	村上 陽一	大神 正彦	和歌山製鉄所		
		小林 肇	木屋 隆昭	川辺 壮一	鋼管製造所		
白井 堯	日新製鋼(株)	宮本 立三	藤井 昭明	勝見 良平	小倉製鉄所		
佐々木慶夫	久保田鉄工(株)	三菱製鋼(株)	東洋鋼板(株)		長崎製鋼所		
小宮山徹郎	日本ステンレス(株)	下松工場研究所	川崎製鉄(株)		閔山 定男	東京工業大学金属工学科	
					佐藤 健一	東北大学工学部金属工学科	
金本 通隆	新日本製鉄(株)				安部 伸継	早稲田大学工学部金属工学科	
西尾巳喜男	堺製鉄所						
神戸 三男	広畑製鉄所						
野呂 克彦	新日本製鉄(株)						
	名古屋製鉄所						
竹之下賢一							

書 評

鑄 鋼 ・ 鑄 鉄 (鉄鋼工学講座 9)

荒 木 透 編 著

本書は I. 鑄鋼技術と II. 鑄鉄との 2 篇から成る。つまり鋼と鑄鉄の鑄物の諸性質と製造技術とを一冊にまとめたものである。

わが国での鑄物の生産も逐年増加し、最近では鑄鋼で約 100 万トン、鑄鉄で約 500 万トンの年間生産量を示し、ソ連、米国に次ぐ世界第 3 位の座を占めている。また材質的には特に鑄鉄の分野で顕著な発展があり、強靱鑄鉄、なかでも球状黒鉛鑄鉄の開発は鑄鉄技術に革新をもたらしたことは繰り返すまでもないことである。

さらに製造技術面からは、鑄鋼での大型電気炉または LD 転炉溶解による大型製品の鑄造とか、鑄鉄での従来慣用されてきたキューボラから低周波誘導加熱溶解炉への転換などの溶解関係から、さらに造型技術に至っては各種方式の自硬性鑄型の技術が相次いで開発され、また FS 法のような流動性型砂を利用する技術も実用されてきている。さらに鑄物工場の機械化、計装化、自動化、省力化などによる合理化も推進され、遠からず多くの工場では様相が一新されるものと思われる。

こうした背景のもとで、鑄鋼、鑄鉄に関する基本的な内容を鉄鋼工学講座の中の一冊としてどのように盛るかは、企画する人の考え方でかなり違うものと思われる。

ところで本書では鑄鋼と鑄鉄に関して組織、物理的性質、機械的性質、溶解法、鑄造方案、鑄型、鑄造欠陥、熱処理、溶接など全般に亘り懇切に要領よく解説されている。学生、技術者に順序よく必要知識が得られるよう配慮されたことがよくうかがえるでき栄である。著者は宮崎勢四郎、草川隆次、牧口利貞、尼木敏雄、近藤賢治の 5 氏であり、いずれも第一線で活躍されている権威者ばかりである。本書により鑄鋼鑄鉄をよく理解できる方々ができるだけ多いことを期待し、学生、研究者、技術者各位に本書を推薦したい。(相山正孝)

(A 5 版, 285 ページ, 定価 1900 円, 朝倉書店)

正 誤 表

鉄と鋼, 56 (1970) 11, S 643 中の式を下記のごとく訂正いたします。

(誤) $F_w^* = -\alpha \cdot P + \alpha' \cdot \left(C + \frac{1}{1-r} C \right)$ (15)

(正) $F_w^* = -\alpha \cdot P + \alpha' \cdot (C - (1-r) C)$ (15)